



報道関係者 各位

2012年11月28日

～マルハニチロホールディングス、「冷凍食品に関する調査」～

「ドラッグストア」で冷凍食品購入 2割

冷凍食品利用率 「朝食」3割弱 「昼食」6割 「夕食」7割

「冷食ランチ」は専業主婦に多い傾向

利用冷凍食品 1位「からあげ」、2位「ギョーザ」、3位「コロッケ」

子どもの夜食で出番が多い冷食「焼きおに」「中華まん」「たこ焼き」

冷凍食品のアレンジ 約半数

“冷凍食品が世の中から消えたら家事を放棄したくなる”3人に1人

冷凍食品で時短化 浮いた時間は「女子力アップ」に費やしたい 20代の4人に1人

株式会社マルハニチロホールディングス (<http://www.maruha-nichiro.co.jp/>) (所在地: 東京都江東区豊洲 3-2-20 代表取締役社長 久代 敏男)は、冷凍食品の利用実態を探るために「冷凍食品に関する調査」を2012年10月27日～10月30日の4日間でインターネットリサーチ(モバイルリサーチ)により実施し、1,000名(調査対象者:月に1日以上冷凍食品を利用する20歳～59歳の女性)の有効回答を集計しました。(調査協力会社:ネットエイジア株式会社)

冷凍食品を『月に1日以上』利用する割合

◆冷凍食品を『月に1日以上利用』81.2%

20歳～59歳の女性(1,671名)に対し、冷凍食品をどれくらいの頻度で利用しているか聞いたところ、『月に1日以上』利用している割合は、全体では81.2%となり、年代別にみると、20代75.7%、30代81.5%、40代83.6%、50代84.3%となりました。

未既婚別にみると、未婚者75.4%、既婚者85.9%(専業主婦81.1%、有職主婦89.0%)で、お弁当を作る層と作らない層では差が開き、お弁当を作らない層63.5%に対し、お弁当を作る層では87.2%となりました。

「冷凍食品に関する調査」 調査結果

◆ドラッグストアで冷凍食品購入 2割

◆冷凍食品購入で「比較・ランキングサイト」を参考に 約4人に1人

月に1日以上冷凍食品を利用する20歳～59歳の女性(全回答者1,000名)に、どこで冷凍食品を購入しているか聞いたところ、最多は「スーパー(店頭で)」で95.1%、次いで「ドラッグストア」20.9%、「宅配生協」19.3%、「コンビニエンスストア」13.6%となりました。

次に、自分で冷凍食品を購入している986名に、冷凍食品を購入する際に、インターネットからの情報をどの程度参考にするか聞いたところ、「比較・ランキングサイト」では『参考にする(計)』が23.3%と、約4人に1

人の割合となりました。その他の情報源の『参考にする(計)』は、《メーカーのホームページ》で 16.1%、《インターネットの掲示板》で 12.3%、《ブログサイト》では 11.2%となりました。《SNS》は 6.6%でしたが、年代別にみると、20代では 10.1%と 1割になりました。

◆冷凍食品利用率 「朝食」3割弱「昼食」6割「夕食」7割

◆「冷食ランチ」は専業主婦に多い傾向

◆お弁当のおかずの半分以上は冷凍食品 4割強

全回答者(1,000名)に、お弁当と三食(朝食・昼食・夕食)のそれぞれについて、冷凍食品を利用しているか聞いたところ、《お弁当》では利用率が 79.6%となり、《朝食》は 28.8%、《昼食》は 60.1%、《夕食》は 70.3%となりました。《お弁当》での利用率は、お弁当を作る割合が高かった子どもがいる層(539名)で特に高くなっており、87.9%と 9割近くになりました。また、《昼食》での利用率は、専業主婦(212名)が未婚者や有職主婦より高く 68.4%と 7割近くになりました。

冷凍食品の利用率はお弁当で最も高くなりましたが、お弁当のおかずにも冷凍食品を利用する際、冷凍食品はどの程度の割合を占めているか聞いたところ、お弁当で冷凍食品を利用する 796名の回答では、「半分以上」を占めるは 4割強(41.6%)でした。

◆利用冷凍食品 1位「からあげ」、2位「ギョーザ」、3位「コロッケ」

◆冷食ランチ主婦 「うどん」「チャーハン」を半数以上が利用

◆子どもの夜食で出番が多い冷食「焼きおに」「中華まん」「たこ焼き」

それでは、どのような冷凍食品が利用されているのでしょうか。

全回答者(1,000名)に、日頃、利用している冷凍食品を聞いたところ、「からあげ」63.1%が最多で、次いで「ギョーザ」53.9%、「コロッケ」53.7%、「ハンバーグ」51.1%、「シューマイ」49.9%が続き、お弁当やおかずにも利用できるものが上位となりました。主食となるものに限ってみると、「うどん」46.9%、「チャーハン」42.9%が 4割以上となり、「焼きおにぎり」36.4%、「パスタ・スパゲティ」36.3%、「ピラフ」35.5%が僅差で並びました。昼食に冷凍食品を利用する主婦(359名)の回答をみると、主食となるものの利用率が全体に比べて高くなるものが多く、特に高かったのは「うどん」(57.7%)、「チャーハン」(54.9%)で、全体に比べ 10ポイント以上高くなりました。

また、子どもの夜食で出したことがある冷凍食品を聞いたところ、子どもの夜食に冷凍食品を出したことがある 242名の回答は、「焼きおにぎり」49.6%が最多で、「中華まん(肉まん・あんまん等)」47.5%、「たこ焼き」39.7%、「うどん」33.1%、「ピザ」23.6%が続きました。

◆冷凍食品をアレンジ 約半数

◆冷凍食品のアレンジは「レシピサイト」を見て 4割

全回答者(1,000名)に、冷凍食品のアレンジについて聞きました。

まず、冷凍食品をアレンジしているかどうかみると、「アレンジすることがある」は 48.9%、「アレンジすることはない」は 51.1%とそれぞれ約半数となりました。

次に、冷凍食品をアレンジすることがある 489名について、どのような情報を利用してアレンジしているかみると、「オリジナルな発想・おもいつき」が最多で 51.9%、次いで「レシピサイト」39.1%、「テレビ番組」36.6%、「スーパーなどにある小冊子・チラシ」32.5%、「料理本」25.4%が続きました。年代別にみると、若い世代ほど「レシピサイト」の情報を利用してアレンジしているようで、その割合は 20代で 54.9%となりました。

それでは、どのようなアレンジが行われているのでしょうか。アレンジ内容を自由回答で聞いたところ、オリジナルなアレンジをしている方では、“中華丼の具であんかけやきそばにしたり、中華丼の具を春巻きの具として使う”、“焼おにぎりに鮭フレークとわさびを追加し、お茶をかけて、お茶漬けにする”、“炒飯をオムライスやドライカレーにする”や、“一口カツを、めんつゆと玉ねぎの中に入れ、ときたまごをかけてカツ丼にする”、“ミックスベジタブルをマッシュして、ジャガイモのマッシュと混ぜてコロツケの形にしたものをバターで焼く”など簡単なアレンジから手の凝ったアレンジまで、色々なアレンジが行われていることがわかりました。

◆冷凍食品の良い点 「調理の手間がかからない」 9 割弱

◆改善希望 “パッケージ写真と中身のギャップ” 4 人に 3 人

全回答者(1,000 名)に、冷凍食品の良い点と改善希望について聞きました。

冷凍食品のどのようなところが良い点か聞いたところ、「調理の手間がかからない」が 87.7%と 9 割弱となり、「保存がきく」78.3%、「素早く調理できる」77.2%、「必要な分だけ利用できる」67.2%、「おいしい」43.2%が続きました。調理の手間や時間がかからないことや、必要な分だけ利用し、使わなかった分はまた保存できるため、無駄が出ないこと、そして、おいしいことが良い点の上位となりました。

次に、冷凍食品についての改善内容を 5 項目提示し、改善して欲しいか聞いたところ、『そう思う(計)』割合は、『食の安全性を高めて欲しい』で 92.8%となり、食の安全性にも関わってくる『原料原産地をわかりやすく記載して欲しい』は 78.1%となりました。また、『パッケージ写真と中身のギャップを無くして欲しい』は 74.1%、『内容量を多くして欲しい』は 63.1%、『調理の時間や方法をわかりやすく記載して欲しい』は 43.3%でした。

◆“冷凍食品が世の中から消えたら家事を放棄したくなる” 3 人に 1 人

全回答者(1,000 名)に冷凍食品にまつわる経験や意識について聞きました。

まず、冷凍食品にまつわる経験についてみると、「あてはまる」(経験がある)割合が高かったのは、『パッケージの調理時間通りに加熱したが、冷たかったことがある』で 85.3%と際立って高くなりました。『冷凍食品を利用することに後ろめたさを感じたことがある』は 32.8%となり、『家族に冷凍食品を手料理と間違えられたことがある』は 14.6%となりました。

次に、冷凍食品にまつわる意識についてみると、「あてはまる」割合は、『冷凍食品が世の中から消えたら、家事を放棄したくなる』では 33.6%と同意を示したのは 3 人に 1 人の割合となりました。日頃料理をする時間があまりない層(475 名)44.0%や未就学の子どもがいる層(111 名)40.5%、小学生の子どもがいる層(114 名)43.0%では全体に比べ「あてはまる」割合が高くなりました。冷凍食品が家事の負担軽減に役立っている様子が窺え、特に、日頃料理時間を確保できない方や子どもが手離れしていない方の役に立っているようです。

◆冷凍食品の多用によって、現代女性が求めている時間の使い方は？

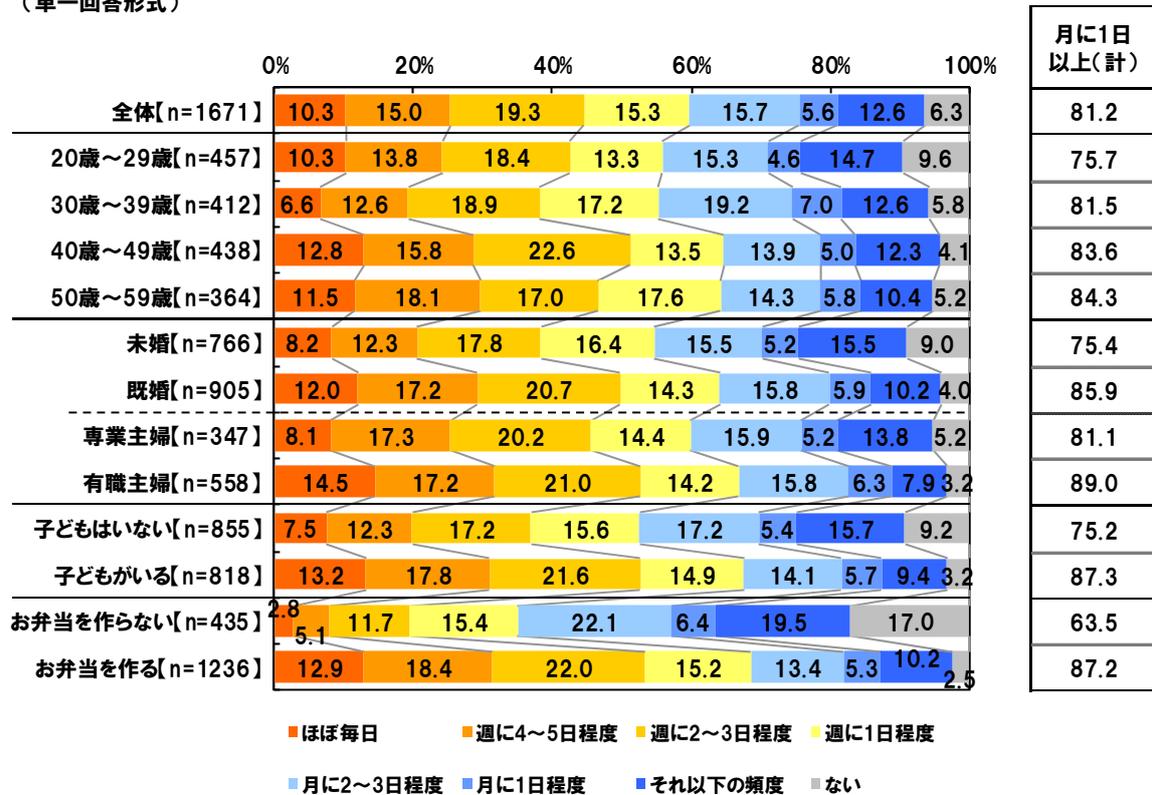
◆冷凍食品で時短化 浮いた時間は「女子力アップ」に費やしたい 20 代の 4 人に 1 人

冷凍食品の良い点では“調理の手間がかからない”や“素早く調理できる”が上位でしたが、冷凍食品の多用による食事作りの時短化によって、浮いた時間に今後費やしたいものを聞いたところ、最多は「睡眠や休息」で 70.5%、次いで「ストレス発散」31.3%、「趣味を多彩にする」25.5%、「家族のサポート」18.7%、「知的好奇心を満たす」15.3%、「女子力アップ」12.8%が続きました。

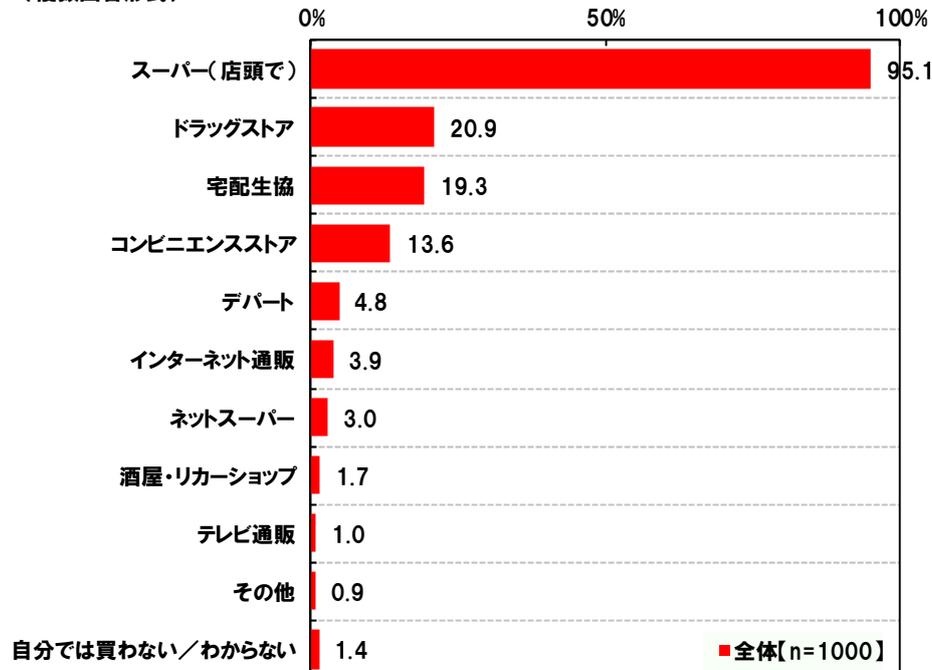
「女子力アップ」に時間を費やしたいとする割合は、若い世代ほど高く、20 代では 24.8%と 4 人に 1 人の割合でした。

また、便利家電の保有意向別に「ストレス発散」に時間を費やしたいとする割合をみると、《ロボット掃除機》の保有意向層では 36.0%、非保有意向層では 24.6%となり、《食器洗い乾燥機》の保有意向層では 35.1%、非保有意向層では 22.8%となりました。ロボット掃除機や食器洗い乾燥機など、家事の時短化につながる便利家電の保有意向層の方が、非保有意向層に比べて「ストレス発散」に時間を費やしたいとする割合が 10 ポイント以上高くなりました。多忙でストレスフルな毎日が続く女性にとって、冷凍食品や便利家電の利用は、日々の生活の潤いにつながることもあるのではないのでしょうか。

《事前調査結果》日頃、どれくらいの頻度で冷凍食品を利用しているか
(単一回答形式)

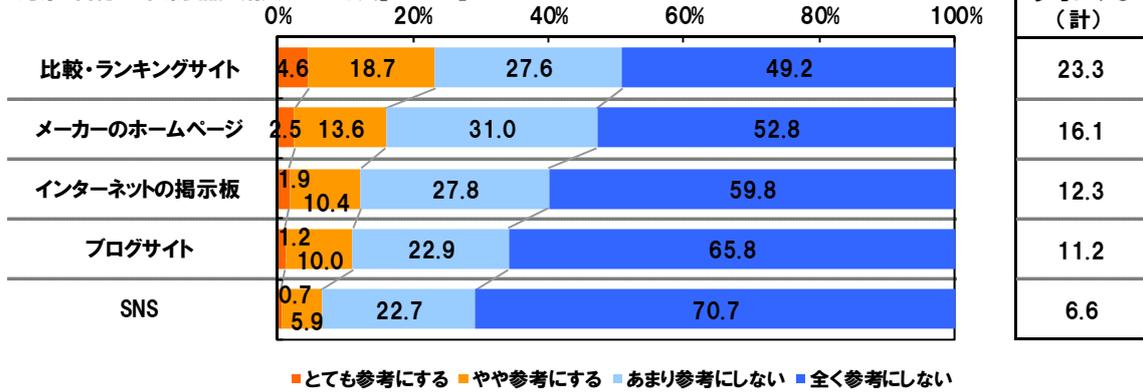


◆どこで冷凍食品を購入しているか
(複数回答形式)



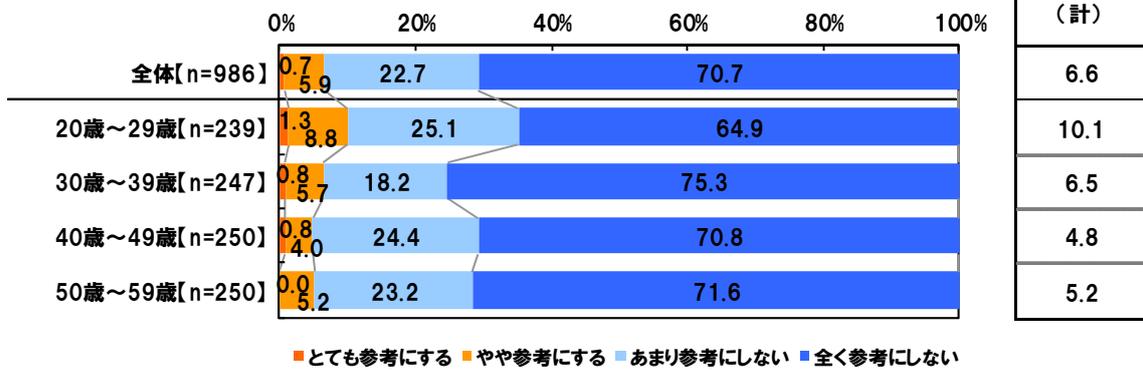
◆冷凍食品を購入する際、インターネットからの情報をどの程度参考にするか
(単一回答形式)

対象: 自分で冷凍食品を購入している人【n=986】



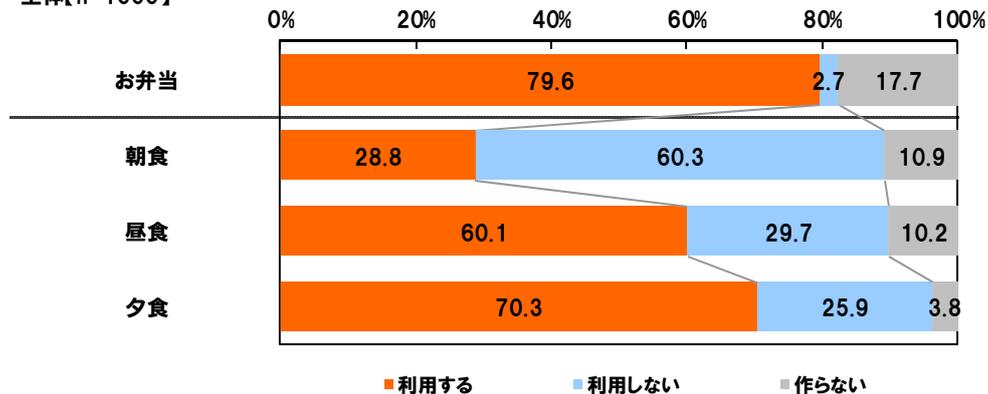
◆冷凍食品を購入する際、《SNS》からの情報をどの程度参考にするか
(単一回答形式)

対象: 自分で冷凍食品を購入している人

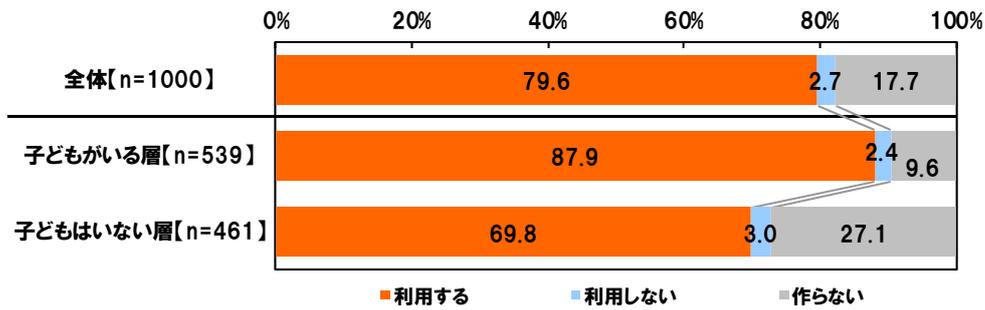


◆お弁当や三食(朝食・昼食・夕食)で冷凍食品を利用している人の割合
(単一回答形式)

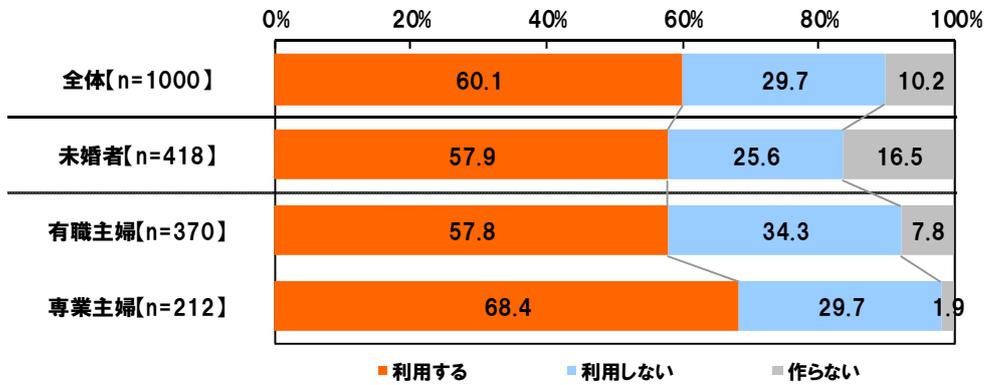
全体【n=1000】



◆お弁当で冷凍食品を利用している人の割合
(単一回答形式)

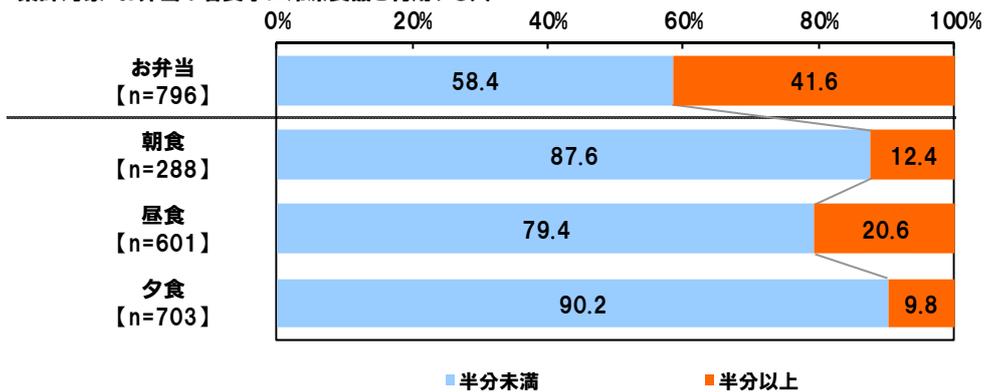


◆昼食で冷凍食品を利用している人の割合
(単一回答形式)

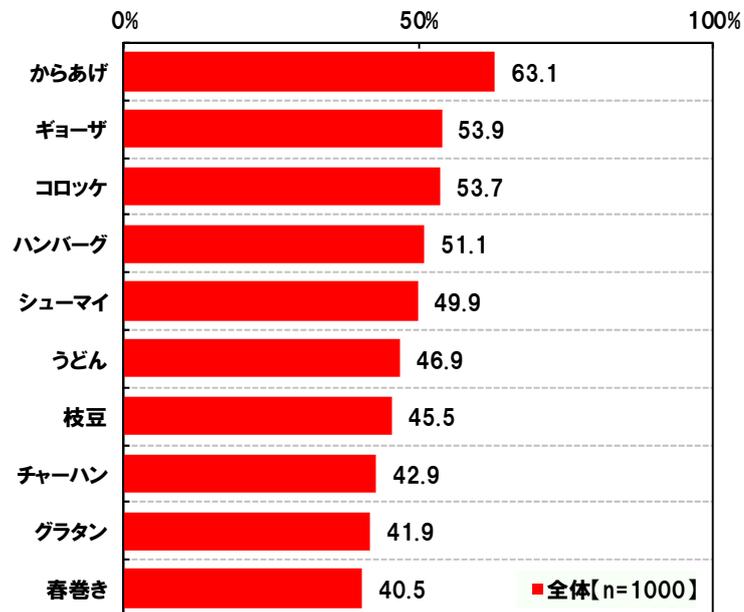


◆冷凍食品を利用する際、冷凍食品はおかずどの程度の割合を占めるか
(単一回答形式)

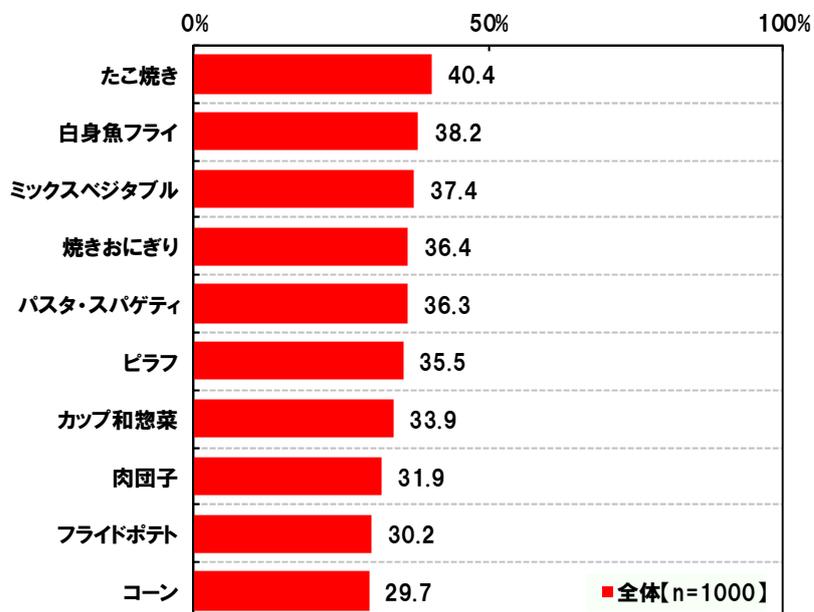
集計対象: お弁当や各食事に冷凍食品を利用する人



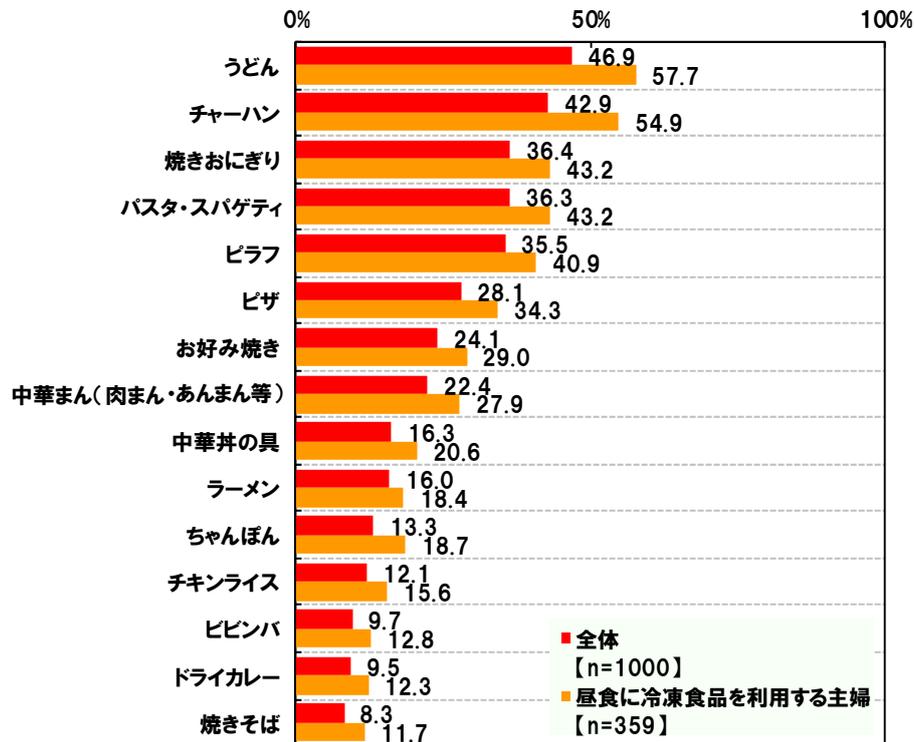
◆日頃、利用している冷凍食品
(複数回答形式)
※1位~10位までを表示



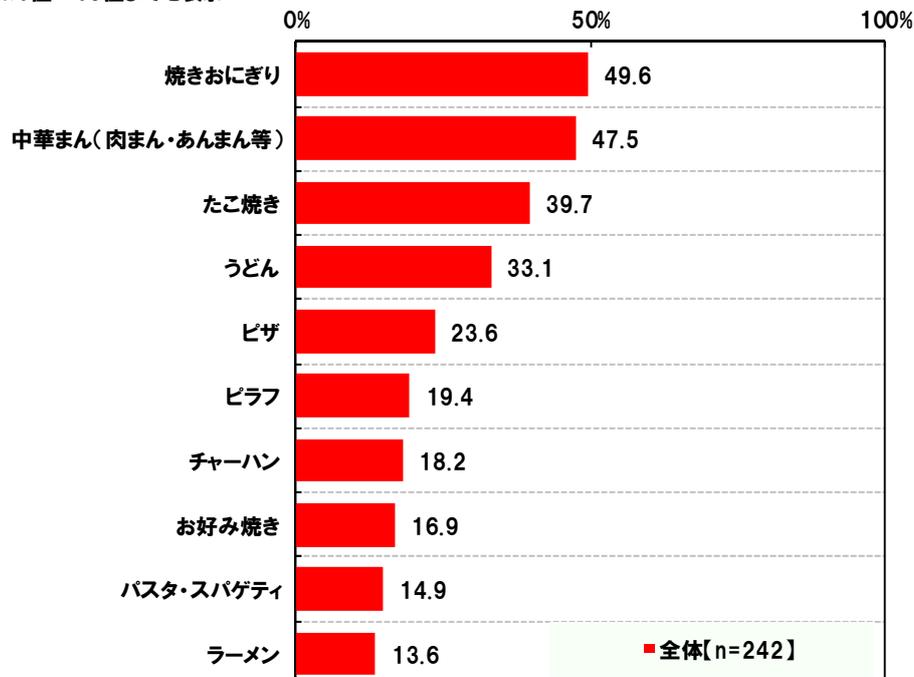
◆日頃、利用している冷凍食品
(複数回答形式)
※11位~20位までを表示



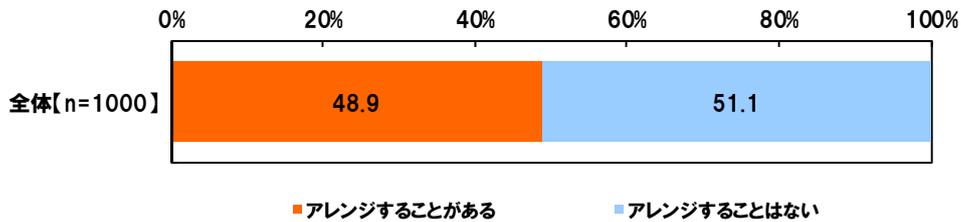
◆日頃、利用している冷凍食品(主食となるものを抜粋)
(複数回答形式)
※1位~15位までを表示



◆子どもの夜食として出したことがある冷凍食品
(複数回答形式)
対象: 子どもの夜食に冷凍食品を出したことがある人
※1位~10位までを表示

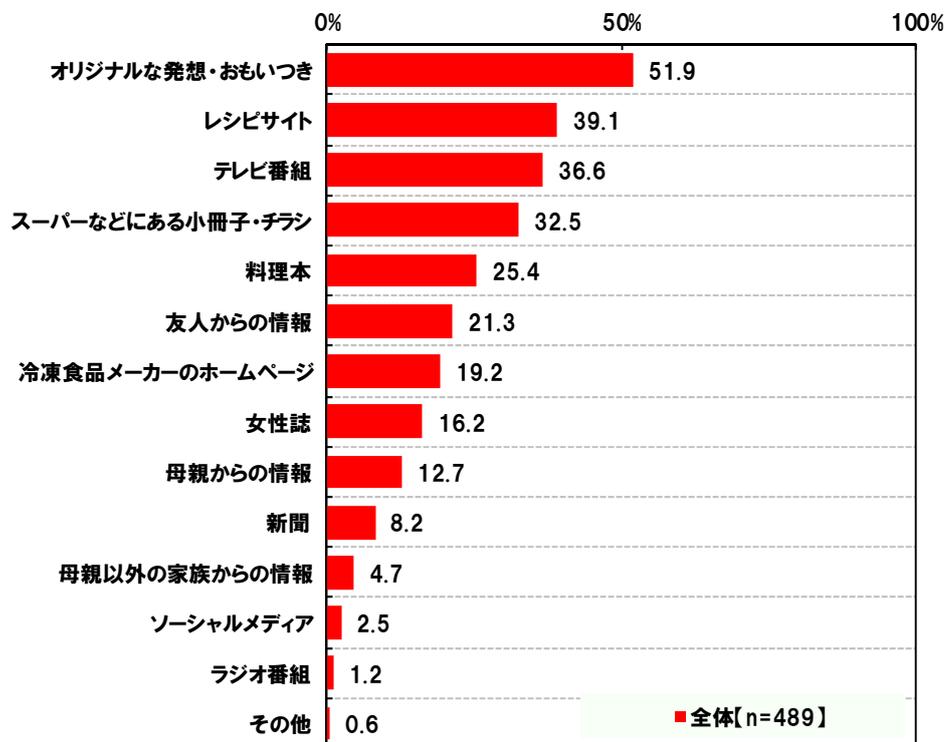


◆冷凍食品を利用する際、アレンジすることがある人の割合



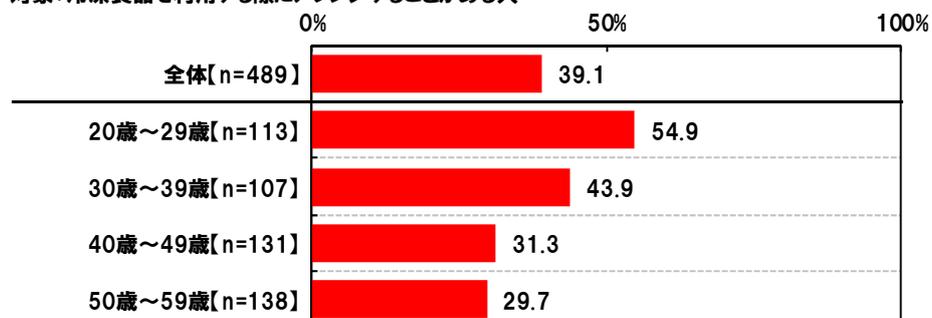
◆冷凍食品を利用する際に、どのような情報を利用してアレンジしているか
(複数回答形式)

対象：冷凍食品を利用する際にアレンジすることがある人



◆冷凍食品を利用する際に、《レシピサイト》を利用してアレンジしている人の割合

対象：冷凍食品を利用する際にアレンジすることがある人

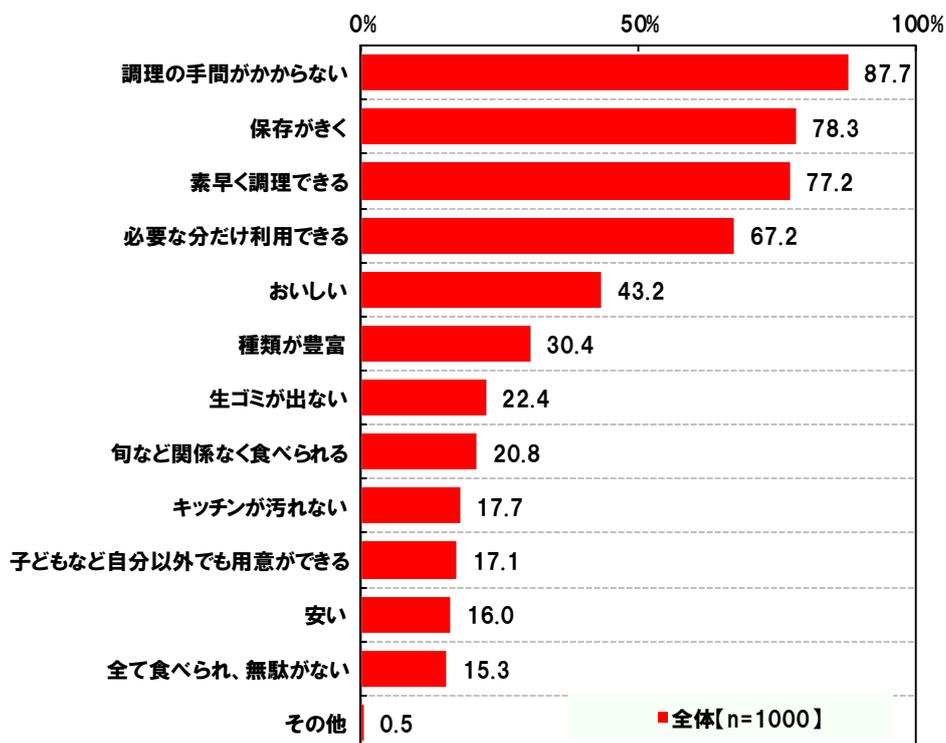


◆冷凍食品を利用する際に行なうアレンジの内容
(自由回答形式)

対象: 冷凍食品を利用する際にアレンジすることがある人

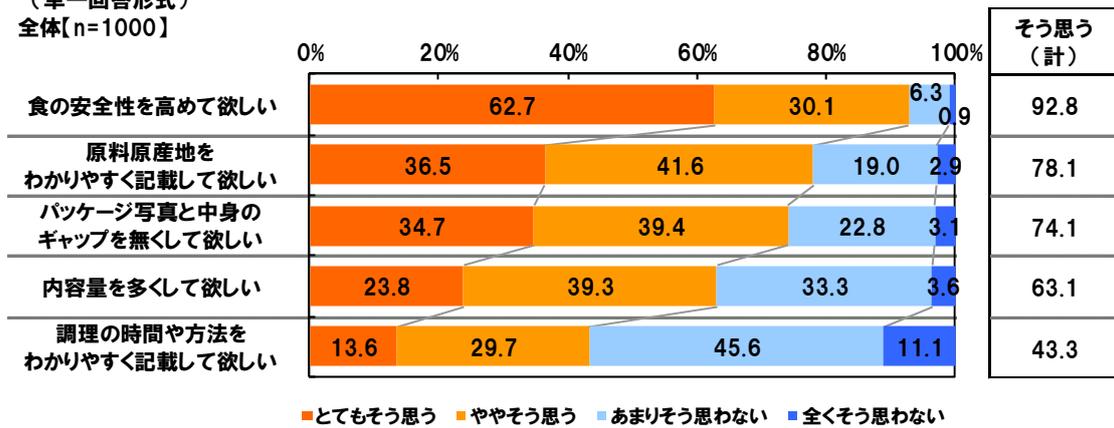
アレンジ内容	年齢	未婚
牛丼の具を卵でとじて、うどんにトッピングする。	20歳～29歳	未婚
マンゴーやブルーベリーに牛乳など加えてミキサーにかけてフローズンする。	30歳～39歳	既婚
一口カツを、めんつゆと玉ねぎの中に入れ、ときたまごをかけてカツ丼にする。	30歳～39歳	既婚
中華丼の具であんかけやきそばにしたり、中華丼の具を春巻き具として使う。	30歳～39歳	既婚
冷凍唐揚げを油で揚げ、合わせ酢に漬けて南蛮にする。	30歳～39歳	既婚
カレーピラフを使ってオムライスを作る。	30歳～39歳	未婚
中華丼の具を揚げ餃子にかけ、粗く潰してから薄く延ばして揚げたご飯にかけておこげ風にする。	40歳～49歳	既婚
野菜炒めにエビチリを絡めて、最後にときたまごを入れる。	40歳～49歳	既婚
ピラフをリゾットにする。	50歳～59歳	既婚
炒飯をオムライスやドライカレーにする。	50歳～59歳	既婚
焼おにぎりに鮭フレークとわさびを追加し、お茶をかけて、お茶漬けにする。	50歳～59歳	既婚
ミックスベジタブルをマッシュして、ジャガイモのマッシュと混ぜてコロッケの形にしたものをバターで焼く。	50歳～59歳	未婚

◆冷凍食品のどのようなところが良い点だと思うか
(複数回答形式)



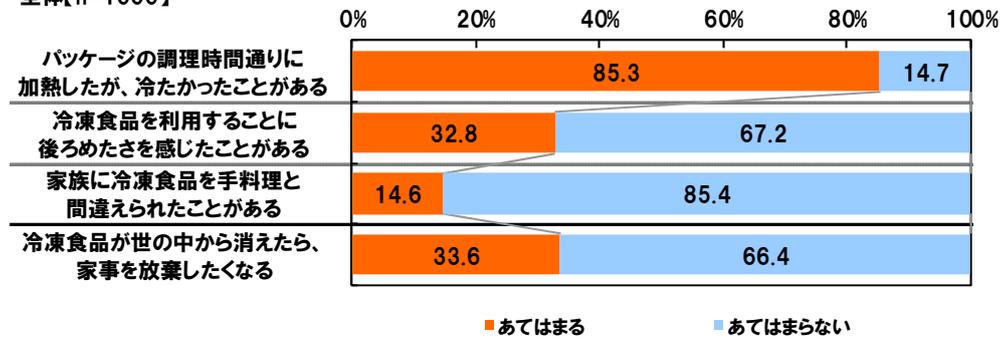
◆冷凍食品について、以下の内容を改善して欲しいと思うか
(単一回答形式)

全体【n=1000】



◆冷凍食品にまつわる経験や意識
(単一回答形式)

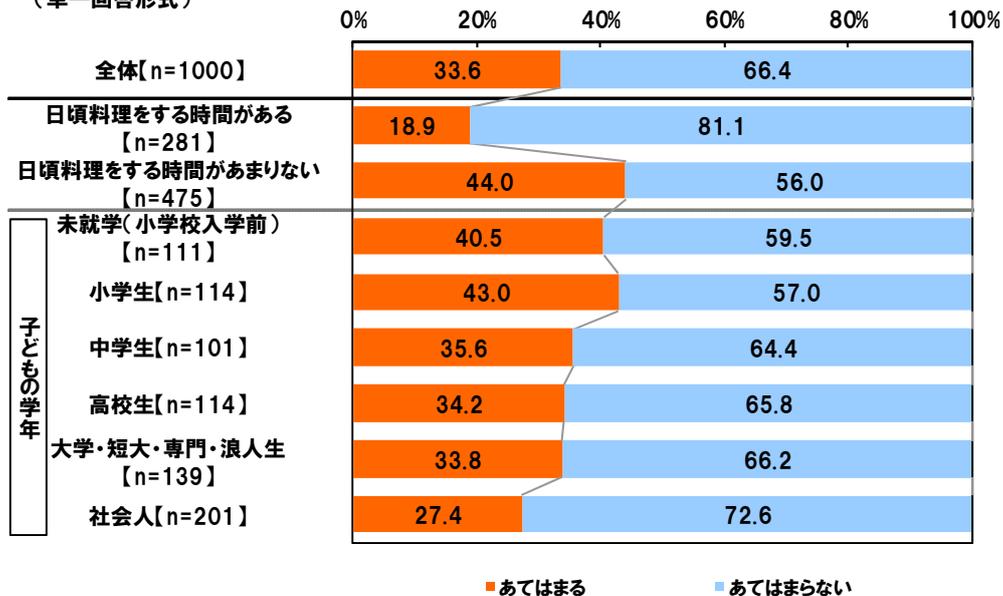
全体【n=1000】



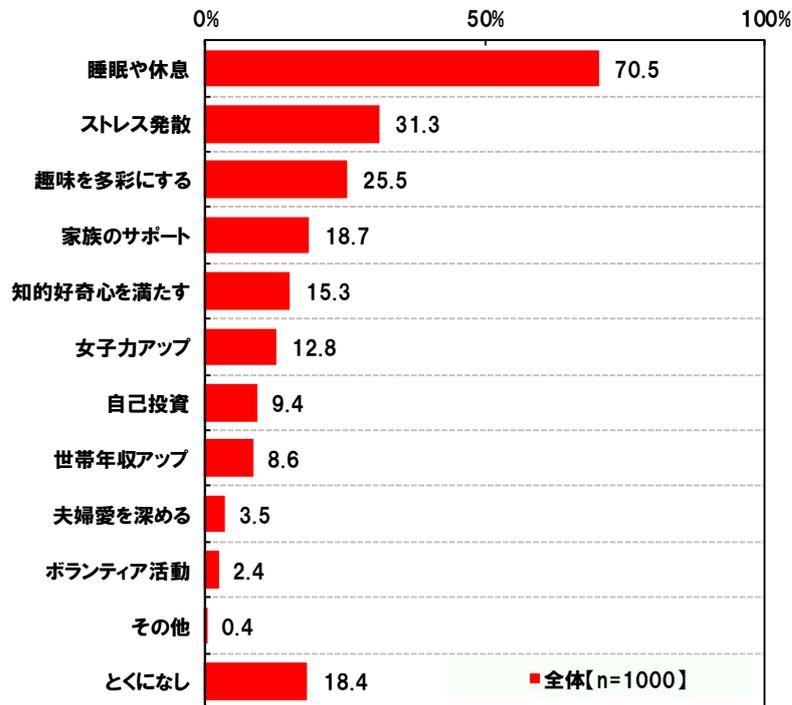
◆冷凍食品にまつわる意識

《冷凍食品が世の中から消えたら、家事を放棄したくなる》

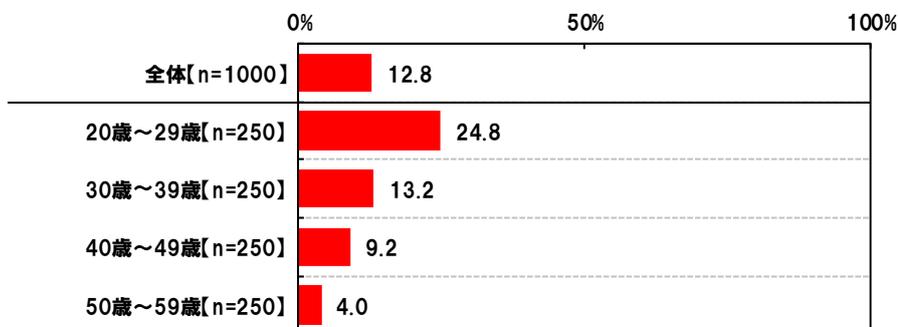
(単一回答形式)



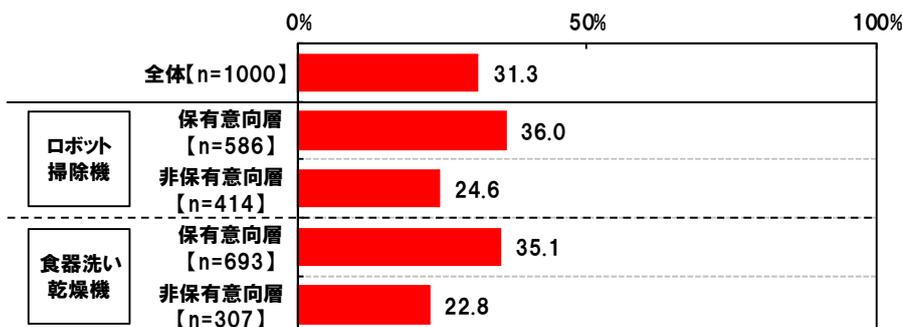
◆冷凍食品の多用による食事作りの「時短化」によって、今後時間を費やしたいこと
(複数回答形式)



◆冷凍食品の多用による食事作りの「時短化」によって、今後時間を費やしたいことを
《女子力アップ》と回答した人の割合



◆冷凍食品の多用による食事作りの「時短化」によって、今後時間を費やしたいことを
《ストレス発散》と回答した人の割合



※保有意向層には、現保有者含む

(調査概要)

- ◆調査タイトル : 冷凍食品に関する調査
- ◆調査対象 : ネットエイジアリサーチのインターネットモニター会員を母集団とする月に1日以上冷凍食品を利用する20歳~59歳の女性
- ◆調査対象者の内訳 : 20代 (250名) 30代 (250名) 40代 (250名) 50代 (250名)
- ◆調査期間 : 2012年10月27日~10月30日
- ◆調査方法 : インターネット調査 (モバイルリサーチ)
- ◆調査地域 : 全国
- ◆有効回答数 : 1,000サンプル (有効回答から1,000サンプルを抽出)
- ◆実施機関 : ネットエイジア株式会社

(調査協力会社 : ネットエイジア株式会社 担当: 吉田)

■■報道関係の皆様へ■■

本ニュースレターの内容の転載にあたりましては、
「マルハニチロホールディングス調べ」と付記のうえ
ご使用くださいますよう、お願い申し上げます。

■■本調査に関するお問合せ窓口■■

株式会社マルハニチロホールディングス
TEL : 03-6833-0826
Eメール : koho@maruha-nichiro.co.jp
受付時間 : 9時00分~18時00分 (月~金)

■■会社概要■■

代表者名 : 代表取締役社長 久代 敏男
設立 : 2004年4月
(2007年10月に、株式会社マルハグループ本社から
株式会社マルハニチロホールディングスに社名変更)
所在地 : 東京都江東区豊洲3-2-20 豊洲フロントビル
業務内容 : 水産事業、食品事業、畜産事業、保管・物流事業

会社および商品の詳細は <http://www.maruha-nichiro.co.jp/> をご覧ください。